



札幌市学校体育研究連盟

令和7年12月19日 第222号

編集：編集部

札幌市立元町小学校

発行：事務局

札幌市立澄川南小学校

文責：加藤 信也（札幌市立小野幌小学校）

第64回全国学校体育研究大会北海道大会～白楊小会場～

豊かなスポーツライフの実現を目指し、「自ら」課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して資質・能力を育む体育・保健体育学習という大会主題のもと、第64回全国学校体育研究大会北海道大会が開催されました。研究部を中心に授業者と何度も会合して話し合いが行われ、子どもたちの学びが深まる、素晴らしい授業が公開されました。また、授業後の研究討議も活発に行われ、実りの多い充実した大会となりました。

本号では、白楊小学校会場での授業や討議の内容、助言者の御講評を紹介させていただきます。

研究の概要

【大会主題】

豊かなスポーツライフの実現を目指し、「自ら」課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して資質・能力を育む体育・保健体育学習

【研究の柱①】

子供の「～したい」を生む教材づくり

【研究の柱②】

子供が自ら課題を発見し、解決するための手立て

【研究の柱③】

子供が自分に合った方法で学習できる学習過程の工夫

【北海道学校体育研究連盟 全道統一研究主題】

「つなぐ体育 ひらく未来」

～見方・考え方を豊かに働かせ、自己実現する体育活動～

これまでの札幌支部の研究

北海道・他支部の研究

北海道・札幌の子どもの実態

授業の概要

一次
公開

第2学年 走・跳の運動遊び 跳の運動遊び 「ジャンプグリア HAKUYO」

【研究の柱①】

- ・「ジャンプグリア」の場
→運動遊びを楽しみながら、様々な跳び方を
経験することができる
- ・クリアでお宝収集できるミッションの設定
→ストーリー化することでの没入感づくり、
見通しをもてる単元構成



【研究の柱②】

- ・ジャンプクリアタイム①での動きのポイントを
全体で共有
→高さの違う3つのコースをクリアするためにペアで活動

【研究の柱③】

- ・クリアチャンスタイム(グループ活動)
→高く跳ぶためのポイントや考えをグループで共有
- ・ジャンプクリアタイム②でのペア活動
→高く跳ぶためのポイントを意識してペアで活動



どう跳ぶと高く跳べるかな

二次
公開

第3学年 表現運動 リズムダンス 「3の2ダンスパーティ」

【研究の柱①】

- ・学びのゴールである「3の2ダンスパーティ」の設定
→リズムダンスの魅力を感じ、温かな雰囲気の中で
ベストムーブを披露する
- ・「SPD」を目指す意識付け
→「すてきなパーティダンサー」になるために、
リズムに乗って楽しく踊る

【研究の柱②】

- ・課題の選択と課題の見える化
→「動きやリズムを変える」学習に焦点化し、体育帽子に
課題テープを貼り付ける
- ・「動画みタイム」の保障
→撮影した動画を確認し、課題解決の進捗を確認する

【研究の柱③】

- ・SPD インタビューによる伝え合い
→言葉だけではなく、動きも交えながら試した動きを振り返る
- ・「おどりためしタイム」の位置付け
→個人で踊ったり、友達のよい動きを真似したり、
教え合ったりする



動きやリズムをチェンジして踊るために、どう動いたらいいかな

《討議の内容》

	一次公開	二次公開
柱①	<p>○ジャングリアは遊びの要素が多く、運動量も確保でき、子どもたちは夢中で遊んでいた。</p> <p>○ストーリー化された導入が子どもを引き込み、中学年の運動にもつながる良い場となっていた。</p> <p>○低学年の運動遊びは広げすぎると活動がぶれるが、今回の授業はねらいが明確で、活動が焦点化されていた。</p> <p>●キリンの登場で意欲は高まったが、高さ設定に工夫の余地があった。高さの増加などの工夫があると、意欲をより引き出せそうだった。</p> <p>●運動遊びとしては、跳び方の多様さがあっても良かった。</p> <p>・「できた」経験をもとに、子どもが「こうしたらできた」と語る姿を引き出したかった。</p> <p>・ねらいを「高く跳び越す」とし、高跳びにつなげる意図から片足跳びに限定した。</p>	<p>○ダンスパーティーの教材とヒーローインタビューの時間が大変良かった。</p> <p>○空間の広さがちょうどよく、閉塞感のない場となっていた。</p> <p>○2年生の表現遊びや日常生活でのリズム遊びの積み重ねにより、音楽が流れると自然に体が動く子が多かった。</p> <p>●リズムの変化に気付かせるため「速い→遅い→速い」の単元構成でも良かったのではないか。</p> <p>・全身を使わせ、動きのポイントを掴ませるために、単元が進むほどBPMの遅い曲から速い曲に変えていく意図があった。</p>
柱②	<p>○教師が継続して声を掛けたことで、子どもたちは安心して取り組んでいた。</p> <p>○できた子ができない子に関わる姿が素晴らしく、その関わりが「跳べる」につながっていた。</p> <p>●ポイントを共有した後に少し高い目標を示すと、挑戦意欲が引き出され、ポイントに戻って学ぶ姿につながりそうだった。</p> <p>●2年生が課題を見つけるには、自分の体のギリギリを感じる経験が必要だと考えられる。</p> <p>・運動遊びと陸上運動のつながりを意識し、正しい技能知識を身に付けたいと考えた。</p>	<p>○踊りが止まる子には、映像・掲示物・教師の声掛けが効果的だった。</p> <p>○4つの崩し(体(動き)・空間・リズム・人間関係)を全て取り入れるのではなく、視点を「動き」か「リズム」に絞ることで課題が捉えやすくなった。</p> <p>○視覚資料の活用により、子どもの気付きが引き出されていた。</p> <p>●リズムチェンジでさせたい動き(タン・タン・タタ・タン、いち・に・さ～ん等)を示すのが難しく、より効果的な手立てを検討したい。</p>
柱③	<p>○「できた」経験を重ねたことで子どもたちは、もっとやってみようとし生き生きと活動していた。</p>	<p>○評価でオクリンプラスを使った振り返りが適切で、学びを深めていた。</p> <p>○「動きチェンジ」「リズムチェンジ」の掲示物や映像が、自分に合った学習方法として機能していた。</p> <p>●リズムチェンジは動きの連続になり、前時の子どもの動きを写真で掲示することが難しいと感じられた。</p> <p>・あっためタイムにさせたい動きを散りばめることで、どの子も動きの要素を取り入れられるようにした。</p> <p>・「即興的」は、知っている動きを選んで組み合わせることと捉えている。</p>

《御講評 千葉大学 准教授 七澤 朱音 様》

一次公開

- ◆雰囲気づくりが大切である。
- ◆つい跳びたくなる環境やイラストなど、心を刺激する場づくりが有効であった。
- ◆4分のマネジメントタイム、9分のアップタイムで十分な運動量を確保できていた。
- ◆目標物があることでエネルギーを発揮し、技能的達成感を得やすい。
- ◆マットには滑り止めを敷くことで安全性が高まる。
- ◆ねらいに応じて跳び方は変わる。工夫できる範囲を狭めるか広げるかが絶妙で、今回は目標物を高くする工夫も考えられた。
- ◆踏み切り位置をマーカーで示す方法も効果的である。
- ◆膝を高く上げる、腕を使うなど、腕と脚の協応動作が必要である。跳べる子が跳べない状況を作ることで、ポイントが明確になる。
- ◆自分自身のこつを探し、感覚として体に落とし込むことが大切である。

二次公開

- ◆帽子にめあてを書かせると、教師と子どもが目標を共有でき、指導や助言が明確になる。
- ◆SPD インタビューとそこで撮影した映像を見る時間が保証される良い仕組みである。
- ◆視覚教材が均等に配置されていることで効果が高まった。
- ◆会場の広さが良かった。音をサラウンドにすると、よりリズムを感じやすい。
- ◆子どもの良い動きを、全体で共有すると良い。
- ◆音の発見を促すと、リズムの発見にもつながる。
- ◆リズムダンスは体幹でリズムを弾ませるものである。動きを大きくすることで、体幹を弾ませる動きにつながる。動きの大きさは、膝から頭の上等、具体的に伝えると良い。
- ◆へそだけではなく、肩や膝など、体の部位に刺激を入れてあげると、大きな弾みにつながる。
- ◆リズムを可視化していくことで、子どもたちはリズムの変化を理解することができる。